

別紙第3号書式

公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

I 基本的事項

1 事業の概要

特別会計名：簡易水道事業特別会計

事業名	簡易水道事業		
事業開始年月日	昭和31年4月1日	地方公営企業法の適用・非適用	□適用 □非適用
団体名*	五戸町	職員数* (H19. 4. 1現在)	1
構成団体名			

- 注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。  
2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

2 財政指標等

資本費	172円(H18)	公営企業債現在高(百万円)	460(H18)
累積欠損金(百万円)	—	利益剰余金又は積立金(百万円)	0(H18)
不良債務(百万円)	—	財政力指数*	0.29(H18)
資金不足比率(%)	—	実質公債費比率* (%)	21.0(H19)
		経常収支比率* (%)	98.4(H18)

- 注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。  
なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 <input type="checkbox"/> 該当なし
[合併期日：平成16年7月1日 合併前市町村：五戸町、倉石村] 旧五戸町簡易水道事業及び旧倉石村簡易水道事業の特別会計の統合により、職員数の減・施設管理の一体化

- 注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。  
2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。  
3 □にレを付けた上で内容を記載すること。

4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	五戸町簡易水道事業経営健全化計画
計画期間	平成19年度～平成23年度
計画策定責任者	五戸町長 三浦正名
既存計画との関係	集中改革プラン（H17～H21）
公表の方法等	平成20年3月議会で説明予定及び町のホームページへの掲載。
基本方針	安全な水の供給を基本に、効率的な施設整備や維持管理により、経費の節減を図ります。また、事業収支の不足を補うため、料金の見直しと未収金の徴収対策を強化し、経営の健全化を図ります。そして、給与等の適正化についても、一般会計職員同様の見直しを図ります。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

I 基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

（単位：百万円）

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	8.4	29.7	1.3	39.4
	補償金免除額	0.8	6.8	0.3	7.9
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額				
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額				

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除（見込）額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債	簡易水道事業債	8,393	29,684	1,311	39,388
合 計 (A)		8,393	29,684	1,311	39,388
一 般 再 掲 ※ 上 記 の う ち 再 掲 再 掲					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)		8,393	29,684	1,311	39,388

【旧簡易生命保険資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 再 掲 ※ 上 記 の う ち 再 掲 再 掲					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公 営 企 業 債					
合 計 (A)					
一 般 再 掲 ※ 上 記 の う ち 再 掲 再 掲					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。  
 2 必要に応じて行を追加して記入すること。

## II 財務状況の分析

区 分	内 容																		
財務上の特徴	<p>当町の水道事業は、荷軽井・手倉橋・倉石・北部地区の4簡易水道と関口・下豊川・大久保・沼沢地区の4小規模水道を経営し、管理している浄水施設は10箇所である。また、新たに平成20年度には上豊川地区小規模水道が供用開始となる。倉石地区簡易水道（16集落）を除いては、1集落単位の給水区域で地域的に点在した山間部となっています。給水人口は年々減少し、それに伴い料金収入に減少してきている。町の水道は八戸圏域水道企業団からの給水と町営の簡易水道・小規模水道からの給水である。水道料金は、10㎡当り八戸圏域水道企業団は1,927円町営の簡易水道等は1,785円である。</p>																		
経営課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="424 674 628 734">課題 ①</td> <td data-bbox="628 674 1471 734">水道料金の適正化</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 734 1471 846">平成20年度には10㎡を超過する分の料金改正を実施したが、目標値に達していない。今後は近隣事業体等の料金体制を参考にしながら検討していく。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="424 846 628 907">課題 ②</td> <td data-bbox="628 846 1471 907">維持管理費の節減</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 907 1471 1019">水道施設の管理業務は民間委託を導入している。建設年度が早い倉石地区簡易水道施設は機械設備の点検・清掃を行い、修繕工事増大の抑制を図る。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="424 1019 628 1079">課題 ③</td> <td data-bbox="628 1019 1471 1079">給与水準の適正化</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 1079 1471 1191">一般会計職員と同様に手当の総点検・給料等の適正化を図る。特殊勤務手当はなし。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="424 1191 628 1252">課題 ④</td> <td data-bbox="628 1191 1471 1252">未納金の回収</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="424 1252 1471 1364">未納金については、給水制限や戸別訪問を実施し徴収の強化を図る。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="424 1364 628 1424">課題 ⑤</td> <td data-bbox="628 1364 1471 1424"></td> </tr> </table>	課題 ①	水道料金の適正化	平成20年度には10㎡を超過する分の料金改正を実施したが、目標値に達していない。今後は近隣事業体等の料金体制を参考にしながら検討していく。		課題 ②	維持管理費の節減	水道施設の管理業務は民間委託を導入している。建設年度が早い倉石地区簡易水道施設は機械設備の点検・清掃を行い、修繕工事増大の抑制を図る。		課題 ③	給与水準の適正化	一般会計職員と同様に手当の総点検・給料等の適正化を図る。特殊勤務手当はなし。		課題 ④	未納金の回収	未納金については、給水制限や戸別訪問を実施し徴収の強化を図る。		課題 ⑤	
課題 ①	水道料金の適正化																		
平成20年度には10㎡を超過する分の料金改正を実施したが、目標値に達していない。今後は近隣事業体等の料金体制を参考にしながら検討していく。																			
課題 ②	維持管理費の節減																		
水道施設の管理業務は民間委託を導入している。建設年度が早い倉石地区簡易水道施設は機械設備の点検・清掃を行い、修繕工事増大の抑制を図る。																			
課題 ③	給与水準の適正化																		
一般会計職員と同様に手当の総点検・給料等の適正化を図る。特殊勤務手当はなし。																			
課題 ④	未納金の回収																		
未納金については、給水制限や戸別訪問を実施し徴収の強化を図る。																			
課題 ⑤																			
留意事項																			

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの節減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

Ⅲ 今後の経営状況の見通し（②法非適用企業）

(1) 収益的収支、資本的収支

(単位:百万円,%)

区 分		年 度		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成22年度	平成23年度	平成23年度
		(計画前5年度)	(計画前4年度)	(計画前3年度)	(計画前々年度)	(計画前年度)	(計画初年度)	(実績)	(計画第2年度)	(実績)	(計画第3年度)	(実績)	(計画第4年度)	(実績)	(計画第5年度)	(実績)	
収益的 収 入	1 総 収 益 (A)	56	59	57	54	56	55	53	62	61	62	61	61	69	61	63	
	(1) 営 業 収 益 (B)	51	49	50	49	49	49	47	56	52	57	52	57	52	57	52	
	ア 料 金 収 入	49	49	50	49	47	49	47	56	52	57	52	57	52	57	52	
	イ 受 託 工 事 収 益 (C)					2											
	ウ そ の 他	2															
	(2) 営 業 外 収 益	5	10	7	5	7	6	6	6	9	5	9	4	16	4	11	
	ア 他 会 計 繰 入 金	5	10	7	5	7	6	6	6	9	5	9	4	16	4	11	
	イ そ の 他																
	収益的 収 支	2 総 費 用 (D)	44	44	54	51	54	51	50	49	51	47	50	45	47	44	55
		(1) 営 業 費 用	30	30	40	38	42	39	38	38	40	38	42	37	39	37	48
		ア 職 員 給 与 費	11	11	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	6	9	6
		ウ ち 退 職 手 当	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		イ そ の 他	19	19	31	29	33	30	29	31	29	32	28	32	28	41	
		(2) 営 業 外 費 用	14	14	14	13	12	12	12	11	9	9	8	7	7	7	
ア 支 払 利 息		14	14	14	13	12	12	12	11	9	9	8	7	7	7		
ウ ち 一 時 借 入 金 利 息																	
イ そ の 他																	
3 収 支 差 引 (A)-(D) (E)		12	15	3	3	2	4	3	13	10	15	11	16	21	17	8	
資本的 収 入	1 資 本 的 収 入 (F)	59		21	18	27	25	28	49	51	21	36	11	24	11	28	
	(1) 地 方 債 償 還 金	38									8	15					
	(2) 他 会 計 補 助 金			21	18	27	25	28	19	21	13	21	11	19	11	28	
	(3) 他 会 計 借 入 金																
	(4) 固 定 資 産 売 却 代 金																
	(5) 国 ( 都 道 府 県 ) 補 助 金	21															
	(6) 工 事 負 担 金																
	(7) そ の 他																
	2 資 本 的 支 出 (G)	71	15	21	23	28	31	31	62	62	36	46	27	45	28	30	
	(1) 建 設 改 良 費	59										8		15		2	
	ウ ち 職 員 給 与 費																
	(2) 地 方 債 償 還 金 (H)	12	15	21	23	28	31	31	62	62	36	38	27	30	28	28	
	(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金																
	(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金																
(5) そ の 他																	
3 収 支 差 引 (F)-(G) (I)	-12	-15	0	-5	-1	-6	-3	-13	-11	-15	-10	-16	-21	-17	-2		



## (3) 経営指標等

(単位:%)

		平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成20年度 (計画第2年度)	平成21年度 (計画第3年度)	平成22年度 (計画第4年度)	平成23年度 (計画第5年度)	
資金不足比率	(%) (再掲)											
料金回収率*	(%)	96.1	100.0	87.7	86.0	79.7	80.3	65.1	64.8	100.0	100.0	
総収支比率(法適用)	(%)											
経常収支比率(法適用)	(%)											
営業収支比率(法適用)	(%)											
累積欠損金比率(法適用)	(%) (再掲)											
収益的収支比率(法非適用)	(%) (再掲)	100.0	100.0	76.0	73.0	68.3	67.1	55.9	69.3	89.6	84.7	
不良債務比率(法適用)又は 赤字比率(法非適用)	(%) (再掲)											
繰入金比率	収益的収入分	(%)	8.9	16.9	12.3	9.3	12.5	10.9	9.7	14.7	6.6	6.6
	うち基準内繰入金	(%)	8.9	11.9	12.3	9.3	12.5	10.9	9.7	14.7	6.6	6.6
	うち基準外繰入金	(%)		5.0								
	うち料金収入に計上すべき繰入等	(%)										
	うち赤字補てん的なもの	(%)		5.0								
	資本的収入分	(%)			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	うち基準内繰入金	(%)			52.4	66.7	51.9	60.0	38.8	55.5	100.0	100.0
	うち基準外繰入金	(%)			47.6	33.3	48.1	40.0				
うち赤字補てん的なもの	(%)			47.6	33.3	48.1	40.0					

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

## (1) 資金不足比率 (%)

ア 地方公営企業法適用企業の場合＝地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

イ 地方公営企業法非適用企業の場合＝地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (2) 総収支比率 (%) = 総収益 / 総費用 × 100

## (3) 経常収支比率 (%) = 経常収益 / 経常費用 × 100

## (4) 営業収支比率 (%) = (営業収益－受託工事収益) / (営業費用－受託工事費用) × 100

## (5) 累積欠損金比率 (%) = 累積欠損金 / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (6) 収益的収支比率 (%) = 総収益 / (総費用＋地方債償還金) × 100

## (7) 不良債務比率(又は赤字比率) (%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益－受託工事収益) × 100

## (8) 繰入金比率 (%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

## 2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

## (1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・料金回収率 (%) = 供給単価※1 / 給水原価※2 × 100

※1 供給単価 (円/㎡) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

※2 給水原価 (円/㎡) = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用－(受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費＋基準内繰入金＋減価償却費)＋企業債償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用－(受託工事費＋基準内繰入金)＋地方債償還金) / 年間総有収水量

## (2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・使用料回収率 (%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

条件項目	収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件）
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	<p>能率的な経営の下における適正な営業費用に、水道事業の健全な運営を確保するために必要とされる資本費用を加えて設定する。一般家庭用10㎡当りの八戸圏域水道企業団の使用料は1,927円に対し町営の水道料金は1,785円であるため、平成20年度に料金改正を実施する予定である。その内容は一般家庭用の基本水量を超える超過料金189円/㎡を226円/㎡に、団体用の基本料金1,575円を1,890円に、超過料金199円/㎡を238円/㎡に改正することにより、全体で15%の収入が見込まれる。有収水量は人口の減少により1戸当たり使用水量が低下してきているものの、新たに水道施設が増えるため、全体的には有収水量は横ばいとなり、給水人口は増える。</p>
2 他会計繰入金の見込み	<p>一般会計繰入金は、料金の改正、維持管理費の節減を図り、基準外繰入金を抑える。</p>
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	<p>なし</p>
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	<p>職員の給与は、今後も1人を維持する。</p>

注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

#### IV 経営健全化に関する施策

項 目	具 体 的 内 容
1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減 <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="152 300 611 427">○ 地方公務員の職員数の純減の状況</li> <li data-bbox="152 427 611 531">○ 給与のあり方               <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="203 531 611 675">◇ 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方</li> <li data-bbox="203 675 611 818">◇ 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方</li> <li data-bbox="203 818 611 954">◇ 退職時特昇等退職手当のあり方</li> <li data-bbox="203 954 611 1093">◇ 福利厚生事業のあり方</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="611 300 2139 427">・平成16年度に2人から1人に減じている。今後も1人を維持し、集中改革プランで掲げた目標の達成に向け取り組むこととする。</li> <li data-bbox="611 531 2139 675">③平成15年度給料1.95%及び期末手当0.3ヶ月削減、平成16年度給料0.45%及び期末手当0.25ヶ月削減、平成18年度給料5.63%削減し、平成22年度給料0.03%及び期末手当0.15ヶ月削減、平成23年度給料0.15%削減し、今後は国の給与構造改革に順じて給与制度を見直す。 特殊勤務手当は平成16年7月1日に廃止</li> <li data-bbox="611 675 2139 818">・技能労務職員はいない</li> <li data-bbox="611 818 2139 954">・退職時特別昇給は平成17年4月1日に廃止。</li> <li data-bbox="611 954 2139 1093">なし</li> </ul>
2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等 <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="152 1204 611 1340">○ 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組</li> <li data-bbox="152 1340 611 1476">○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="611 1204 2139 1340">②施設管理については、動力ポンプパッキンの交換や薬品注入器の清掃により、機器の延命を図る。</li> <li data-bbox="611 1340 2139 1476">施設運転管理(水質検査・検針も含む)の業務委託は、平成16年7月1日の合併時に町管理の水道施設を民間に委託している。今後も継続する。</li> </ul>



#### IV 経営健全化に関する施策（つづき）

項 目	具 体 的 内 容
3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保  <input type="checkbox"/> 料金水準が著しく低い団体にあっては、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組	①平成20年度は、料金収入の15%程度増収となる料金改正を行ったが、景気低迷などにより目標に達していない。今後は料金制度の改定を検討している。
4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入  <input type="checkbox"/> 経営健全化や財務状況に関する情報公開  <input type="checkbox"/> 行政評価の導入	決算については、広報及びホームページで公開している。今後も継続する。  現在は導入予定時期を含め協議はしていないが、今後検討する。
5 その他	④未納金については、給水制限や戸別訪問を実施し徴収の強化に努める。

注1 上記区分に応じ、「II 財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、IIに付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「V 繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 繰上償還に伴う経営改革促進効果

1 主な課題と取組み及び目標

課 題	取 組 み 及 び 目 標
1 職員数の純減や人件費の総額の削減	平成16年度に2人から1人に削減している。
2 経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等	平成20年度に上豊川地区水道施設が増えるが既施設同様に維持管理は民間に委託する。また、平成20年度に料金収入の15%程度の増収となる料金改正を予定している。
3 一般会計等からの基準外繰出しの解消等	平成20年度の料金改正により、繰入金の縮減に努める。
4 その他	未納金の徴収を強化し収入の確保を図る。

注1 上記各項目には、Ⅱで採り上げた経営課題に対応する取組としてⅣに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 ※ 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。

(各事業共通留意事項)

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れがないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数→職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できない項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法について、Ⅳの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれの合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するもの等を重複計上することのないよう留意すること。
8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、Ⅰの「5 繰上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「繰上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 線価償還に伴う経営改革促進効果（つづき）

2 年度別目標等

(1) 水道事業

① 年度別目標

(単位:千円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画初年度)	平成19年度 (実績)	平成20年度 (計画第2年度)	平成20年度 (実績)	平成21年度 (計画第3年度)	平成21年度 (実績)	平成22年度 (計画第4年度)	平成22年度 (実績)	平成23年度 (計画第5年度)	平成23年度 (実績)	計画合計	計画合計 (計画見直し)	
<b>【収入の確保】</b>																				
2	料金改定率 改善額(料金の適正化)※1								15%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	12%			
4	未収金の徴収対策 改善額	91	98	58	123	106	476	0	0	0	834	0	0	0	0	0	0	0	834	
	一般会計負担金の額 改善額(負担金の確保等)																			
	資産の有効活用 改善額(収入増額)																			
	その他( ) 改善額																			
<b>【経費の削減】</b>																				
1	職員給与費(退職手当以外) 改善額	12459	12403	9484	7670	7872	7872	7872	8021	7872	7872	7872	7713	7872	6942	7872	6751			
	給与水準 改善額		119	3000		239	3358		-149				159		771		191		940	
	その他(職員数の減) 改善額		119	81		239	439													
	職員給与費(退職手当) 改善額	1046	1072	1107	835	799	799	947	799	963	799	1118	799	1047	799	1064				
	職員数(人) 増減数	2	2	1	1	1	4	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1			
	維持管理費等 改善額(適正化)	19145	19264	30866	28588	32753	30000	29334	29000	30391	29000	30354	28000	31504	28000	40478				
	工事コスト※2 改善額(縮減額)			-11602	-9324	-13489	-34415	2753	3419	2753	2367	3753	2399	4753	1249	4753	2753	19765	12187	
	その他( ) 改善額																			
	累積欠損金比率 増減																			
	企業債現在高 増減	548	532	511	488	460	426	428	396	396	396	368	373	342	344	314	314			
	計画前5年間改善額 合計						-27699													
	改善額 合計																	50765	36034	
	(参考) 補償金免除額																			7904

注1 「課題」欄については、「1」主な課題と取組み及び目標の「課題」欄の番号を記入すること。  
 注2 ※1「改善額(料金の適正化)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。  
 ※2「工事コスト」については、工法の見直し等による建設コストの縮減(建設改良費の抑制は除く。)を記入すること。  
 注3 改善額の算出方法については、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。  
 注4 必要に応じて行を追加して記入すること。また、会計規模により必要に応じて単位を百万円から千円に変更することもとするが、「改善額合計」を算出する際の単位誤り、誤計上(重複計上等)がないよう留意すること。

② 経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度)	平成19年度 (実績)	平成20年度 (計画第2年度)	平成20年度 (実績)	平成21年度 (計画第3年度)	平成21年度 (実績)	平成22年度 (計画第4年度)	平成22年度 (実績)	平成23年度 (計画第5年度)	平成23年度 (実績)
給水人口 (人)	3654	3632	3654	3572	3499	3635	3525	3695	3509	3700	3488	3700	3102	3700	3015
年間総有収水量 (千m <sup>3</sup> )	246	238	240	241	236	241	234	242	235	242	234	242	269	242	359
公称施設能力 (m <sup>3</sup> /日)	1529	1529	1529	1529	1529	1592	1593	1618	1647	1618	1647	1618	1647	1618	1647
1日最大配水量 (m <sup>3</sup> /日)	1065	1039	1104	1092	927	1000	918	1029	975	1030	975	1030	1004	1030	1339
最大稼働率 (%)	69.7	68	72.2	71.4	60.6	62.4	57.6	63.0	59.2	63.7	59.1	63.7	61.0	63.7	81.3
供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	199	206	208	203	199	203	199	222	222	236	220	236	217	236	161
給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	228	248	312	307	339	346	342	466	354	343	339	298	322	298	259

③ 簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「検討体制・実施スケジュール、検討の方向性、結論をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。

倉石地区簡易水道は八戸圏域水道企業団に隣接しているため、平成19年度から統合に向けて協議中である。また他の簡易水道及び小規模水道についても給水区域間が3km~4kmの遠距離であるものの検討中である。